

平成 16 年 1 月 23 日決定
平成 18 年 12 月 21 日一部改正
平成 19 年 10 月 31 日一部改正
平成 21 年 11 月 2 日一部改正
肥料・飼料等／微生物・ウイルス合同専門調査会

薬剤耐性菌の食品健康影響評価の進め方について

1 背景

- (1) 平成 15 年 12 月 8 日付けで農林水産省が食品安全委員会に意見を求めてきた薬剤耐性菌に係る食品健康影響評価については、食品安全委員会専門調査会運営規定によると、肥料・飼料等専門調査会の担当となるところである。
- (2) 一方で、求められている評価事項は、「抗菌性物質そのものが有するリスク」ではなく、「抗菌性物質が使用された場合に選択される薬剤耐性菌のリスク」であり、微生物・ウイルス専門調査会も加わった二専門調査会合同の審議が必要であると考えられる。
- (3) しかしながら、二専門調査会合同の会合を開催し審議する場合には、専門委員の人数が多いことから効率的な調査審議が困難であると考えられる。
- (4) これらの事情を踏まえ、平成 15 年 12 月 8 日付けで農林水産省が食品安全委員会に意見を求めてきた薬剤耐性菌に係る食品健康影響評価並びに動物用医薬品及び飼料添加物の食品健康影響評価のうち薬剤耐性菌を介した影響の部分については、次により二専門調査会による WG において審議することとする。

2 運営

- (1) WG の設置
肥料・飼料等専門調査会及び微生物・ウイルス専門調査会による WG を設置する。
- (2) WG の構成
WG は、二専門調査会に属する専門委員から構成する。また、座長が必要であると認めた場合には、専門調査会委員以外の有識者の参加を求める。
- (3) 評価結果の取り扱い
WG の評価結果は二専門調査会の了解を得て、合同専門調査会の評価結果とする。また、WG の検討状況は、適宜、二専門調査会に報告する。